

新川会通信

第61号



新川会ホームページ

すまいる

発行
社会福祉法人新川会

〒930-0362
上市町禰田字七郎谷 1-32
Tel (076) 472-1118
Fax (076) 472-5391
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp
HP <http://www.niikawakai.jp/>

発行責任者 山岸 親史

令和8年も新川会をよろしくお願いいたします



地域連携推進会議の大切さ

四ツ葉園 施設長 藤木 和美

令和七年四月から、「地域連携推進会議」の開催が義務化されました。四ツ葉園は一足早く、令和六年度から取り組みを始めています。

当園では、利用者様代表・保護者様代表・民生委員代表・上市町福祉課・上市町社会福祉協議会の皆様に構成員としてご参加いただき、施設の様子をご覧いただいたり、ご意見を伺ったりしています。

地域連携推進会議の目的は、「利用者様と地域とのつながりを深めること・地域の皆様に施設や利用者様への理解を深めていただくこと・サービスの質と透明性を高めること・利用者様の権利を守ること」にあります。

令和六年度の第一回では、園での地域活動をスライドでご紹介し、利用者様が楽しみにしている喫茶コーナーにもご一緒いただきました。令和七年度の第二回では、上市消防署の方にもご参加いただき、災害時訓練を見学していただいた後、実際の災害時に想定されることや、今からできる備えについて意見交換を行いました。令和八年度には、「しまむら」さんの衣類販売の様子をご覧いただき、地域とのつながりについてさらに意見を深めていく予定です。

構成員の皆様からいただく意見には、たくさんのお気づきがあります。たとえば、「避難が済んだ居室の扉に目印を貼るとよいのでは」とのご提案を受け、すぐに取り組みを始めました。

四ツ葉園は、地域の皆様に支えられて成り立っています。だからこそ、利用者様と構成員の皆様が地域で出会ったときに、「こんにちわ」と自然に声をかけ合えるような関係を大切にしたいと思っています。そして、そのあたたかな輪が、これからも少しずつ広がっていくことを願っています。



地域移行支援について

新川会地域生活相談室

室長 中川 伸治

「地域移行」とは、障害者一人ひとりが市民として自ら選んだ地域や住まいで安心して自分らしい暮らしを実現することを意味します。地域移行に際しては、ご本人やご家族を慮ると同時に地域の関係機関や関係者の調整が必要になってきます。

例えば、入所施設から地域のグループホームに移行する場合は、保護者・入所支援施設・相談支援事業所・生活介護事業所・グループホーム関係者・行政機関（市町村福祉課）・医療機関・移動支援事業所・訪問看護事業所などの関係機関が集まり、検討を重ね、地域資源、サービス活用しながらご本人のニーズやおもいを叶え暮らしを支えることとなります。住まい

の場・日中活動・医療・制度・インフォーマルな資源などを組み合わせ、ご本人のおもいを叶えるために、隙間を埋めていくことが重要です。一人ひとりの希望に応じて作り上げていくため関わる関係機関はそれぞれで異なります。

入所支援施設を退所することが目的ではなく「ご本人が安心して暮らし続けること」がめざすべき姿です。

まずは、ご本人の意思を確認し尊重し、できるだけ体験の機会を設け、経験を積み、エンパワメントを育むことが大切です。

※1 インフォーマル

公的な制度に基づかない、地域住民やNPO、ボランティア団体などが提供する支援サービスのこと

※2 エンパワメント

本人が自分の生活を主体的に選び、行動できる力を引き出す支援



フライングディスク大会

令和七年九月二十一日（日）富

山県総合運動公園で第二十五回富山県スポーツ大会のフライングディスク競技会が行われました。アキュラシーとディスタンスの二種目が行われ、グループホームからは参加希望者十三名が競技に参加しました。晴天で暑さが厳しい日でしたが、暑さに負けず、日々の練習の成果を発揮し、皆さん最後まで諦めずに競技に挑まれました。この大会で経験したことを来年の大会で活かすことができるよう、頑張っていきましょう。



令和七年十月二十五日から三日間にわたって開催されました、第二十四回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」フライングディスク競技富山県代表としてグループホームから一人、全国大会へ出場された方がいます。アキュラシーではグループ内で二位と素晴らしい成績を残されました。本当におめでとうございます。そしてお疲れさまでした。



（二口支援員 記）

四ツ葉園だより



復活！花火が上がった納涼祭

八月九日に六年ぶりとなる夜間での納涼祭を開催しました。久しぶりの花火もあり利用者や保護者の方も楽しみにされていました。オープニングセレモニーは上市高校吹奏楽部の演奏、NPO法人ダルクによる和太鼓演奏の迫力には皆さん「おー」と声をあげながら楽しんで見られました。

その後は焼きそば、そうめん、おにぎり、やきとりなどの美味しい食事を堪能し、竹風会の輪踊りで身体を動かした後はいよいよ待ちに待った打ち上げ花火が始まりました。

地響きと迫力の音が身体に伝わり、みなさん最後の一発まで花火に釘付けになって見ていました。



(石坂支援員 記)

SDGsをテーマにした四ツ葉園祭

十月十一日、第33回四ツ葉園祭を開催しました。

SDGsのテーマにあたり、様々な各ブースにSDGsの要素を取り入れました。太鼓クラブでは廃タイヤを使用したの演奏、ゲームコーナーでは空き缶やダンボールを活用して楽しく遊戯できるよう工夫をしました。各班活動の作品は木の端材や落ち葉などを利用した創作作品を展示しました。食事関係も皆さまに美味しいご飯を提供できたと思います。



(野城支援員 記)

令和七年度選択外出の振り返り

今年度は、計九回の選択外出が無事に実施することができました。利用者の皆さまそれぞれが思い思いの時間を過ごされ、終始笑顔が多く見られました。また、天候にも恵まれ、すべて快晴の中で安全に外出を行うことができたことも、大きな喜びの一つでした。

<p>12月温泉</p>	<p>10月ぶどう狩り</p>	<p>7月電車外出</p>	<p>6月カーレ観戦</p>	<p>5月土人形づくり</p>
	<p>11月動物園</p>	<p>10月遊園地</p>	<p>7月ショッピング</p>	<p>6月クッキング</p>

(石黒支援員 記)

しまむら・シュープラザ・とくし丸でお買い物企画

今年度は四ツ葉園にお店が来てくださり、利用者さんが買い物をする機会を増やすことができました。社会体験、自己選択の機会になることはもちろん、買い物することはとても楽しい時間です。自分で悩んで、職員と相談して、ほしい物を選んで買ってもらった利用者さんの満足な笑顔は格別でした。



(工藤主任 記)

四ツ葉園速報

すずかぜ通りプレイルームが改装され、明るい雰囲気になりました。ソファも新調され、気持ちよく過ごしています。



雷鳥苑だより



一人ひとりが主役の雷鳥苑祭

十月二十五日、雷鳥苑祭が開催されました。

行事の企画は、自治会役員が中心となって進めています。今年の苑祭では毎年恒例のハンドベル演奏・合奏の他に、「全員で何かできないか」を合言葉に話し合い、合唱することに決まりました。選ばれた曲は「にじ」。

七色の軍手をはめ、歌詞に合わせて手話で表現する合唱に挑戦しました。手話が難しい方は色とりどりの風船等を手に持ち、それぞれの方法でステージに参加しました。手話を大きく丁寧



(岡崎係長 記)



包み込み、自然と大きな拍手が起こりました。一人ひとりが役割を持ち、自分にできる形で表現することで達成感と自信に満ちた発表となりました。会場に大きな虹がかかった心に残る素敵なひとときとなりました。

さつき苑だより



今年度の振り返り

さつき苑は、令和六年四月に就労継続支援B型事業所として、利用者・職員共に新しい顔合わせでスタートし、二年が経過しました。当初から、ギクシヤクした雰囲気もなくお互いにお互いを認め合いながらの素敵な一年でしたが、今年度はどちらかというと皆で協力して切磋琢磨しながら前に進んでいく「飛躍」とも呼べるような雰囲気だったと感じます。

木工作业では新たな販売ルートとして「錫杖キーホルダー」を製作して剣岳の麓にある「伝蔵小屋」（早月小屋）での販売をスタートしました。売れ行きは好調で全国のクライマーの手に渡っていることが想像できます。今後も木工のスペシャリストたちによる手で新たな製品を作っていきます。

農福連携事業では年間を通して忙しく働かせてもらっています。今年度は新たに参入された農家さんとも契約を結び除草作

業や苗箱洗いなどで地域貢献しています。昨今の異常気象で夏場は毎日のように猛暑日が続いています。利用者の皆さんは文句ひとつ言わず作業に精を出してくれています。様々な関係者からの感謝の言葉が糧になっています。

自治会も二年目を迎え、今年度は「選外出」を目的に計画から実施まで自治会で話し合い活発な活動となっています。

自分たちのさつき苑をこれまで以上に良くしようとする利用者の方々は毎日楽しく笑顔で頑張っています。

(松岩主任 記)



選外出 (かまぼこ作り体験)

つつじ苑だより



つつじ苑チャレンジ2025報告

就労B

一人ひとりの力が合わさってのチームワーク

英光商事の仕事を始めて7か月が経ちました。日々こなしていくうちに作業スピードが上がり、一週間で1000部納品していたのが、今では2000部納品できるようになりました。疲れが見えてきたときも「あと少し頑張ろう！」と声を掛け合い毎日一生懸命取り組んでいます。これからも皆で協力しながら頑張っていきます。(岡部支援員 記)



放課後等デイサービス

小集団活動で「できた」を増やす

発達に合わせたグループ分けをして、おやつ作りや制作活動を行いました。一人ひとりの達成感や自信を育むことができました。これからも個々の成長を見逃さずに適切なサポートを続けていきたいです。

(宮本主任 記)



小窓だより

小窓

今年度の小窓は、日々の日課に加え、季節を感じられる行事やバスドライブ等楽しみを取り入れた活動に力を入れました。

春には桜を楽しむお花見ドライブ、秋には色づいた景色を楽しむ紅葉ドライブ等、季節の移ろいを感じました。

母の日・父の日のプレゼント作りでは、日頃の感謝の気持ちを込めて一人ひとりが作品を制作しました。プレゼントをもらった保護者から、「すごい！」と喜ぶ声もありました。餅つきのお会やクリスマス会では、季節の雰囲気を楽しみ、たくさん笑顔が見られる時間となりました。

今後も季節の行事や活動の幅を広げて、笑顔あふれる時間を増やしていきます。

(野村支援員 記)



グループホームだより



おやつ作り

日中活動でおやつ作りを行いました。今回は「ずんだもち」に挑戦！皆で枝豆の薄皮を取り、潰してお餅につけ、それぞれのお好みできな粉をトッピングしました。甘くて美味しいずんだ餅が出来上がり、「美味しいわー」と言いながら皆さん大きなお口で頬張っていました。自然と笑顔がこぼれ、ほっと一息つく時間を過ごしました。



クリスマスに向けて

月に一回、講師の池田るみ子先生にお越しいただき、絵画教室を行っています。普段はイラストを見ながらスケッチブックに絵を描きますが、十二月の絵画教室ではクリスマスに向けて、壁面製作を行いました。模造紙に描かれた大きなクリスマスツリーに折り紙やシール等を貼り、個性あふれる華やかなクリスマスツリーができました。一気にクリスマス雰囲気が感じられ、グループホームがより一層明るく賑やかになりました。



(二口支援員 記)

法人内虐待防止研修

四ツ葉園 支援課長
山本美幸

十二月十三日(土) 令和七年度三回目の虐待防止研修を行いました。新川会全体で行う虐待防止研修は、参加者全員で事業所の枠、業種も入り交ざったグループワークを行っています。また今回は、上市町内にある特別養護老人ホーム「常楽園」からも2名の方に参加していただき、一緒にグループの中に入っていたいただき総勢七十四名での研修を行いました。

今回は、1 通告の手順の読み合わせ2 最近のネットニュース記事を読んで3 事例検討(①②③) 4 講評の流れで行いました。

事例検討では、「こういうことがおこらないために」どうしたらよいのかということテーマに3つの事例を読んで感じることを、事例に対する市町村の対応を読んで感じることをグループで話し合いを行い、発表をしていただきました。どのグループでも活発な意見交換がされており、あちこちから意見への拍手やリラククスして談笑しながら話し合っている様子が伺え、とてもにぎやかなグループワークとなりました。

発表された意見では、
・日頃からご自身では、どうにもならず、周囲の方への粗暴な行為をとってしまわれる方への対応としてはお互いを守るため環境整備を

すること
・職員自身を守ることも大切である
・行動障害があっても、すべての行動には原因があるので、理由をみ
んなで検証、共有することが大切
・利用者に対する虐待防止はあるが、職員への他害、暴行を守るものはあるのか等の意見がありました。
また介護現場からご参加いただいたお二方のお話も興味深く学ばせていただいたとともに職種は違っても頑張っている仲間がいらっしゃることに励まされました。
施設に持ちかえって話をしたいというお言葉もいただきました。

こういった事例検討を繰り返すことで、自らの行動を振り返り、よりご本人に寄り添った支援を行えるきっかけとなり、また一人で抱え込むのではなく、職員で情報を共有しながら相談し合える職場づくりというのも大切だと思います。

